

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00091

研究課題名(和文)チベット密教の生命・身体論 ロンチェンパの研究

研究課題名(英文)The concept of "life" in the Tibetan tantric Buddhism:a study on Longchenpa

研究代表者

永澤 哲(Nagasawa, Tetsu)

上智大学・グリーンケア研究所・准教授

研究者番号：40388210

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、チベットで最も高度なゾクチェン密教の体系を、きわめて明晰に表現した14世紀の哲学者ロンチェンパの生命・身体・意識についての思考を解明することである。研究期間中、文献、海外現地調査、聞き取りを通じて以下の点を明らかにし、15本の論文、1冊の単行本(監修)を公刊した。その思考の原型は、12世紀の綱要書に遡る。ゾクチェン・ニンティク経典の中核部分は、ヨギニ タントラ以前に、インドで成立した。ロンチェンパは、ヨギニ タントラとの対比を通じて、ニンティクの独自性を明らかにしようとした。彼が死をめぐって書いたテキストは、ニンティクの哲学に忠実で、修行者を読者としていたと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ゾクチェン(「大円満」)は、チベット密教の中で最も高度とされ、その全貌はヴェールに覆われている。その哲学と修行を論書の形で表現したロンチェンパの思想を解明し、ゾクチェンの核心は従来説と異なりインドで成立した、光の存在論、死の教え、環境思想を明らかにした。は意識と物質をめぐる独特の思考を含み、量子力学や心脳問題に重要な鍵を与える。を中心に単行本を刊行予定である。は「チベットの死者の書」と密接に関係しており、看取りのための教育プログラム(<https://bwdj.org/>)を通じて、成果を社会に還元する予定である。急速な研究の進展は、科研費助成によって可能になった。深く感謝する。

研究成果の概要(英文)：Three years of my research consisting of overseas field research, interviews with highly recognized Tibetan Buddhist masters and doctors, and close readings of Longchenpa's texts yielded the following findings. 1 Longchenpa's thoughts on human life, body, and consciousness was based on "11 Chapters on Words and their Meaning", a 12th century Tibetan text. 2 The origin of rDzogs chen sNying thig tantras that Longchenpa commented upon goes back to India during the era before the yogini tantras were put into writings. 3 Longchenpa's main effort and contribution lies in elucidating the sNying thig philosophy in sharp contrast to yogini tantras and Kalacakra. 4 Texts he wrote on death shows strict fidelity to rDzogs chen snying thig, compared to the writings of Karmalingpa who was his quasi contemporary, indicating they were written for the practitioners. I successfully managed to publish 15 articles and 1 book during the research period.

研究分野：宗教学

キーワード：密教 チベット ゾクチェン 身体 生命 意識 死 儀礼

研究成果内容

1. 研究開始当初の背景

〔1〕「ゾクチェン」(「大円満」)は、チベットで最も高度な密教とされる。ゾクチェンについてのアカデミックな研究は、1980年代に始まったが、もともと少数の修行者と学僧のみがアクセスを許されていたため、その全貌は現在も厚いヴェールに覆われている。その断片的な側面を扱う論文は、次第に出ているが、まとまった研究書は、英仏語の数冊にかぎられている。方法においては、文献学に偏り、有神論やサイバネティックスの観点から読み解こうとして大きな歪曲を含んでいたり、口伝がないまま、研究を進め、基本的な用語について、完全な誤解をほらむものも多い。その研究はいまだ始まったばかりとってかまわない。

〔2〕永澤哲は、1980年代末から、複数のチベット人師僧からゾクチェンの口伝を受け、学んできた。また「チベット医学と仏教の生命論 臨床・身体技法からのアプローチ」〔2011~2014〕、「チベット医学の生命論 ユトク・ニンティクの研究」(2014~2017)の2つの科研費研究をつうじて、チベット医学と仏教の接点にあたる領域の研究を進めた。また、「神経可塑性」をキーワードとし、21世紀になって急速に発達した瞑想の脳科学の研究を行い、単行本(単著)として2011年に公刊した。このような背景の中で、ゾクチェン・ニンティクの研究の状況を打破し、新しい展開をもたらすべく、本研究課題を構想した。

2. 研究の目的

本研究課題は、ゾクチェンの中でも最も高度で、秘密性の高い「ニンティク」(「心臓の精滴」)の哲学と修行を、洗練した形式で表現した14世紀の天才的哲学者ロンチェンパの思想について、「生命」をキーワードに解明することを目的としている。特にその存在=認識論、身体論、死の教え、環境と人間についての思考を解明することに、重点を置いている。ロンチェンパの一群の著作は、14世紀以降、現代にいたるゾクチェンの伝統に、決定的な刻印を与えており、その解明をつうじて、ゾクチェンの全体像を描く手がかりを得ることを目指した。

3. 研究の方法

4回の海外現地調査(儀礼の参与観察、環境についての調査、文献収集)、7人のチベット人高僧、医師をインフォーマントとする聞き取り調査、文献研究の三つを柱に研究を行った。密教の理解には、真正な血脈に連なり、文献の理解とともに瞑想や儀礼の実践による悟りを得た阿闍梨の口伝が、不可欠である。その点に特に留意して、研究を進めた。また文献研究にあたっては、修行体験とゾクチェン・ニンティクの哲学の対応を明らかにし、またロンチェンパの著作を時代的・空間的コンテクストの中に置くため、12世紀から19世紀のゾクチェン文献と聖者伝、およびサキャ派、カギユ派などの他宗派の密教文献や実際の瞑想法についても、研究を行った。

4. 研究成果

3年間の研究期間を通じて、ゾクチェン・ニンティクおよびロンチェンパの思考について、(1)インド・チベット仏教の歴史の中での位置づけ、(2)生命・意識・物質の発生をめぐる哲学、(3)死の教え、(4)環境と人間の諸テーマを中心に研究を進め、15本の論文、1冊の単行本(監修)を公刊した。

(1) インド・チベット仏教の歴史の中における位置づけ

ゾクチェン・ニンティクの最も古い層に属し、またロンチェンパの『至上の乗り物の宝蔵』『言葉の意味の宝蔵』の根拠ともなった『ニンティク 17 タントラ』について、D. Germano は、11世紀以降新たにインド語から翻訳されたヨギニ・タントラからの影響のもとで、チベットで新たに創作されたとする論文を発表しており、現在ゾクチェン・ニンティクの歴史的研究は、この図式に乗って行われている。それに対して、ゾクチェン・ニンティクの中核部分は、女神を中心とするヨギニ・タントラ以前にインドで成立した可能性が高いことを明らかにした。この発見によって、今後のゾクチェン・ニンティクの歴史的研究の方向は、大きく変更されることになる。

ゾクチェン・ニンティクの14世紀以降の展開について、カギユ派との融合が17世紀初頭に本格的に深化したこと、その背景には、16世紀におけるゲルク派とカギユ派の対立と、17世紀のダライ・ラマ5世による統一政権樹立があったことを明らかにした。従来チベット仏教史は、単一の宗派にフォカスを絞るか、あるいは、19世紀に成立した超宗派運動の視点を過去に投影する形で描かれてきたが、それとはまったく異なるパステクティクヴが開かれた。

上記のとともに、当初予測していなかった発見であり、今回の研究によって、初めて明らかになった。

(2) 生命・意識・物質の発生をめぐる哲学

ロンチェンパが表現したゾクチェン・ニンティクの哲学は、光をキーワードに存在の全体を描く「光の存在=認識論」ともいべきものである。その骨格を明らかにした。特に、ゾクチェン・ニンティクの光の存在=認識論は、流出論的構造を持っており、従来

考えられてきたような有神論的、あるいはサイバネティック・システム論的な枠組みとは、まったく異なっていることが明らかになった。ゾクチェン・ニンティク哲学は、現代の量子力学における観測者問題、心脳問題についても、重要な鍵を与える。両者の関係について、今後考察を進める予定である。

ゾクチェン・ニンティクは、人間の身体を、医学が対象とする「粗大な身体」、呼吸と結びついている「氣息の身体」、光の脈からなる「光の身体」の3つの層から考えている。今回の研究によって、最も微細な光の脈についての説明は、ロンチェンパの著作の内部において、また後代の口伝書においても、揺らぎがあることが明らかになった。今後、ゾクチェン文献における口伝と修行体験の意味について、考え直す必要がある。これも重要な発見である。

(3) 死の教え

ロンチェンパが書き残した死についての教えは、ほぼ同時代の埋蔵宝典発掘者で、いわゆる「チベットの死者の書」の発掘者であるカルマリンパと比較した時、ゾクチェン・ニンティクの伝統にきわめて忠実なものであり、修行者のために書かれただろうことが、明らかになった。また、類似の文献の研究をつうじて、死のプロセスで起こる意識の断続的变化について、ニンマ派においても、少しずつ異なる説明の仕方があることが、明らかになった。「チベットの死者の書」は、現在世界各地のホスピスで用いられているが、その記述をインド・チベットの仏教全体の中に位置づけなおす新たな視点を導くことができた。

ロンチェンパの著作に見られるゾクチェン・ニンティク哲学、修行論と20世紀の聖者伝の研究、聞き取り調査をつうじて、チベットにおけるグリフケアの技法の背景には、ゾクチェン・ニンティクの意識・生命論が横たわっており、現代のバイオエナジェティックス心理学と共通の洞察を含むことを明らかにした。

瞑想に熟達したチベットの高僧は、死に際して、数日間ないし数週間、「トゥクタム」（「聖なる心」）と呼ばれる状態にとどまる。近年の科学研究により、その間、呼吸も心臓も停止しており、脳波も平坦でありながら、坐禅の姿勢を保ったままで、肌色は保たれ、死後硬直もないことが、明らかになっている。ロンチェンパも、10日間ほどのトゥクタムに入ったことが、身近な弟子の書いた伝記によって明らかになっている。このトゥクタムについて、チベットの伝統の内部で、どのように考えられているのか、ゾクチェン・ニンティクおよびカギユ派の修行道程との関係の中で、明らかにした。さらに、大般涅槃経やナガルジュナの著作に説かれる滅尽定との相違点、禅における坐脱立亡との関係を明らかにした。こうした研究は、従来まったく行われたことがなく、今後トゥクタムについての脳科学研究を進めるうえで、きわめて重要な鍵を与えると考える。ゾクチェン・ニンティクおよび「チベットの死者の書」における死の教えと臨死体験の関係、脳科学の観点から行われる臨死体験理解の限界を明らかにした。

(4) 環境と生命

研究期間中に、COVID19の世界的蔓延が起こったこともあり、現地調査と文献研究にもとづいて、ゾクチェン・ニンティク文献における、人間の活動と生命環境をめぐる思考についての研究を進めた。ゾクチェン・ニンティクには、マモと呼ばれる女神のクラスに属す護法尊についてのタントラ経典や、ロンチェンパの書いたものも含め、マモ供養の儀礼テキストが存在する。それらのテキストによると、人間の環境破壊や貧困の放置、社会的道徳の崩壊が、大地を支配するマモたちの怒りを生み、高熱をともなう伝染病や戦争、飢餓をもたらすと考えられている。よく似た思考は、チベット医学の基本経典である『四部医典』や、さらにはアユルヴェーダの古典である『チャラカサンヒタ』にも見られるが、ゾクチェン・ニンティクの文書に見られる記述は、きわめて詳細であり、他に例を見ない。特に、ゾクチェン・ニンティク固有の「光の存在論」と直接につながっている点に大きな特徴があることを、明らかにした。自然と人間の関係をめぐるゾクチェン・ニンティクの「野生の思考」は、現代の環境問題を考えるうえで、大きな示唆を含んでおり、今回のパンデミックから人類が何を学ぶか、という視点からも重要だと考える。

今後、上記内容を中心に、単著の単行本(和書、英書)を出版する予定である。

また、(3)については、超高齢化社会における、よりよい看取りを目指す「死にゆく人と共にあること」プログラム(<https://bwdj.org/>)、および講演、ワークショップをつうじて、成果を社会に積極的に還元する予定である。

5、主な発表論文など

〔論文〕 計15本

永沢哲「青空が癒すーチベットのグリーンケアー」『グリーンケア』8号、査読有、2020年

永沢哲「ニャラ・ペマ・ドゥドウル(3)」『サンガ』35号、2020年、pp. 251~270)
永沢哲「ニャラ・ペマ・ドゥドウル(2)」(『サンガ』34号、2019年、pp. 251-269)
永沢哲「ニャラ・ペマ・ドゥドウル(1)」(『サンガ』33号、2019年、pp. 352-365)
他に11本。

〔学会発表・講演〕 計3件。招待講演2件。

永澤哲「生命の科学とスピリチュアリティ」日本アユルヴェーダ学会第42回研究総会、招待講演、オンライン開催(2020年9月~2021年1月)

永澤哲「身心変容の科学とスピリチュアリティ - チベット仏教の視点から - 」日本家族心理学会第36回学術大会・特別講演(招待講演)、2019年9月21日、岩手大学

永澤哲「チベット密教の身心変容技法と霊的暴力」日本宗教学会第77回学術大会パネル発表、2018年9月9日、大谷大学

〔図書〕 計1件

永澤哲編著『チベット仏教の世界』法蔵館、900頁、2021年

(分担執筆、「密教総説」「ブッダの独り子」「青空の心 ソクチェン経典の世界」ほか15項目)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 8
2. 論文標題 「青空が癒すチベットのグリーンケア」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「グリーンケア」	6. 最初と最後の頁 21～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 35号
2. 論文標題 「ニャラ・ベマ・ドウドウル（3）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「サンガ」	6. 最初と最後の頁 251～270
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 34
2. 論文標題 「ニャラ・ベマ・ドウドウル（2）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「サンガ」	6. 最初と最後の頁 251～269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 33
2. 論文標題 「ニャラ・ベマ。ドウドウル（1）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「サンガ」	6. 最初と最後の頁 352-365
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 第7号
2. 論文標題 「夢の教え」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『身心変容技法研究』	6. 最初と最後の頁 96～106ページ
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 vol.3 no.1
2. 論文標題 「BWDとその背景 -マインドフルネス、慈悲、プロセスとしての死 -」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『エンド・オブ・ライフケア』	6. 最初と最後の頁 84～89ページ
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 2
2. 論文標題 「輪廻と悟り」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ケンポ・ツルティム・ロドゥ来日記念講演集』	6. 最初と最後の頁 104～119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 第8号
2. 論文標題 「能力増強・慈悲・魔」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『身心変容技法研究』	6. 最初と最後の頁 46～50ページ
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沢哲	4. 巻 第8号
2. 論文標題 「愛と創造」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『身心変容技法研究』	6. 最初と最後の頁 160～167ページ
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 永沢哲
2. 発表標題 ア ユルヴェ ダとスピリチュアリティ チベット医学と密教
3. 学会等名 日本ア ユルヴェ ダ学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永沢哲
2. 発表標題 身心変容の科学とスピリチュアリティ
3. 学会等名 日本家族心理学会(特別講演)（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 ケンポ・ツルティム・ロドウ + 永沢哲 + 箕輪顕量	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本慧灯禅修会	5. 総ページ数 184ページ
3. 書名 『ケンポ・ツルティム・ロドウ来日記念講演集』	

1. 著者名 永沢哲(編著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 900
3. 書名 チベット仏教の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------